

EHIME ROUSAI HOSPITAL KANGOBU NEWS NURSE LETTER 10 Month



院内デイ 始めました



南4病棟師長

地域包括ケア病棟がオープンして1年が経ちました。在宅への復帰支援に取り組む中、認知症の症状の悪化・昼夜逆転、ADLの低下といった問題に直面しました。それを解決するために考えられたのが、『院内デイケア かもめ』です。何故「かもめ」かって？それは南4病棟のデイルームに来てみてください。かもめが飛んでいますから…。そして患者さんたちにも、この病棟から元気に在宅へ飛び立ってほしいという願いを込めて、選ばれたネーミングです。院内デイケアは平日のPM1:30～リズム体操・タオル体操などの運動やレクリエーションを楽しみながら行っています。寝たきりにならずに在宅復帰に向け、入院中から昼夜のリズムを整え、活動と休息のバランスを考慮した生活を送るよう支援しています。また患者さん同士の交流ができ、今では時間になると患者さん自ら進んでデイルームに集うようになりました。何より話しかけても無表情だった患者さんに、満面の笑みが戻ってきました。院内デイケアにはこんな素敵な出会いと看護師にとっての癒しの時間があります。ぜひ、皆さんもお立ち寄りください。



内視鏡室

リニューアルオープン

内視鏡室看護師

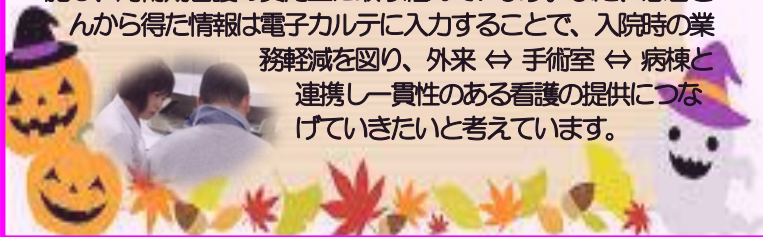
9月から内視鏡室が新たに元麻酔科外来に移転しました。以前はドアを開ければ全てが見えることもあり、便利が良かった半面、患者のプライバシーはありませんでした。新内視鏡室はそうした問題を解決、ドアが設けられ検査室2部屋・回復室3床に加え、車いすのまま入室できる前処置室とゆったりとしたスペースが確保されています。そして何より河川敷を一望できる場所には洗浄室があり、片づけをしつつも心和むひと時を感じられるようになりました。現在内視鏡を行っている医師4名(森Dr、宮原Dr、千代Dr、小林梨江Dr)が、検診・外来で早期消化器癌を発見し低侵襲手術(食道・胃・大腸のESD)を施行しています。そして私たち内視鏡看護師も、早期に社会復帰できるよう頑張ってケアしています。また胆膵系では、胆管癌・膵臓癌・胆石症などの診断を行い、放射線技師と連携しスムーズな検査介助が出来るよう知識・技術の獲得に日々努力しています。今後はさらに患者数の増加や様々な検査介助に対応できるよう、外来・病棟との連携強化を図り、活気ある内視鏡室にしていきたいと思ます。



術前看護外来

手術室師長補佐

手術室では、金曜日以外利用されていなかった眼科外来スペースで、術前看護外来として昨年度より整形外科の局所・伝達麻酔を受ける患者さん対象に、手術の説明や不安の軽減に努めてきました。そして今年度はさらに拡大し麻酔科依頼で手術を受けられる患者さんへも、口腔ケアや禁煙指導など患者教育を実施し、周術期看護の質向上に取り組んでいます。また、患者さんから得た情報は電子カルテに入力することで、入院時の業務軽減を図り、外来⇄手術室⇄病棟と連携し一貫性のある看護の提供につなげていきたいと考えています。



伝達研修

北7病棟

9/14今年度前半の伝達講習があり、それぞれの分野からの発表がありました。医療を取り巻く変化・国の政策や当機構の動き、医療安全に関して等学ぶことができました。2025年には5人に一人(約2200万人)が後期高齢者の超高齢化社会を迎えます。今後はさらに私たちに求められる役割は大きく、患者背景も様々ですが、チーム医療・地域との連携をしっかりと進めていきたいと思ます。

